
夢魔

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢魔

【著者名】

imaiwa

N6293F

【あらすじ】

夢の支配者である夢魔。彼は癒されぬ孤独を紛らわすように夢をハシゴしていた。

「悟～～！」

女が悟とやらに抱きつこうとしている。

さて、ここで俺の出番だ。

茶髪のイケメン風の悟って奴に、俺が指を向けると瞬時に女の前から姿を消した。

で、その後、悟の代わりに、ドラキュラ伯爵でも置いてやる。

「さや～～！」

突然、摩り替ったドラキュラ伯爵におわれる女。

血相かいて逃げてやがる。

ケケケ、面白え！

ふい～しかし、これで終わりのようだ。

女が目覚めるらしい。夢の世界がぐらぐら揺らぎ始めている。
俺はさっと女の頭から抜け出した。夢の消失に飲み込まれたら俺は死んでしまうからな。

それにしても、悟って奴がドラキュラ伯爵に代わったときの女の顔、笑っちゃうぜ。

漫画でいやあ、顔に影線入りまくって青褪めてたな～、ククク。

俺は夢魔……人が寝ている間に、奴等の頭に忍び込み夢の世界で好き放題するのが、仕事つていうか趣味だな。金もらつてん訳でもなく、好きでやってるんだからよ。

まあ、樂しければなんでもいいのさ。

一応、悪魔の部類に入るのかもしれないな、だけど、同業者と出会った事は一度もない。俺が一旦、だれかの夢に入ると、そこはも

う俺の貸切の空間だからだ。

同業者は俺が入っている間は、入って来れないって事になつているらしい。

誰が決めたのかは分からぬが、俺が勝つてにそう思つているんだ。

前一回、気まぐれに入ろうとしたら、入れなかつたからな。たぶん、誰か先に入っているから、入れないんだろうつて思っただけよ。

今日も夜の街を夢の匂いを頼りに闇を闊歩する。しかしよつ、俺みたいな奴が他に存在するなら、こうしている間に出会つてもいいはずだよな？ なんで外の世界で、一度も出くわさないんだろう。

俺はそれについて、仮説を立てたんだが……

察するに、お互ひの姿は見る事ができないんじゃないのかな？ 実はその辺にうろうろしているんだが、見えないって話。人間が幽霊が傍にいても、見る事ができないっていうのと同じさ。まあ～～そんな事はどうでもいい。

俺は～～昼間、暇だつたんだよ。昼寝してる奴が見つからなかつたからな。

あまりに暇だつたから、温かい春の陽気に飲み込まれ昼寝しちまつたよ。

俺は今、夜の街を宙を漂いながら、家々をハシゴしている。

お！ 眠れる女発見だ。俺好みの美人だぜ。

「お邪魔しやーす！」

俺は俺好みの女の頭の中へ、すかさず飛び込んだ。うげ、真つ暗闇だ。まだ夢を見ていないらしい。

お？　闇空間に浮ぶ俺の遙か底のまづから、地鳴りとともに眩い白光がこちらに向かつて広がり始める。

夢が始るよつだ。この娘はどんな夢を見るんだろ？

#

狭い部屋を包む白い壁。ピンクの絨毯。机、箪笥、パソコン、テーブル、椅子。

この娘が椅子に腰掛けながら、携帯を楽しそうに打っている。どこの部屋の中だな。たぶん、この娘の部屋だ。

「隆～今からおこでよ～

「OK！　直ぐ行くから」

じゅやら彼氏と携帯で連絡取り合つて、自分の部屋に呼び込んでいたやいちやする夢っぽいな。

じゅこの見せられると、悪戯したくなるんだよな。
だからよお、この娘むっちゃタイプなんだわ。

さすがに、タイプの女の子を苛めるのは気が引けるぜ。

おつと、あつといつ間にベッドシーンに早代わりだ……

夢つかうのは、上手くできてやがる。

DVDのスキップ機能みたいな、瞬時にシーンが移り変わるんだよ。

ベッドに寝そべる……またイケメン風の男だな。そんな彼氏に跨つて服を脱ぎ始める彼女。

糞が～、またそういう夢かよ。普段の俺ならじこりで、男を物の怪か何かに変えるか、強盗でも侵入させて、じょりとした騒動を

楽しみながら笑ってやる所なんだが……

今日に限つて女の子が、めちゃめちゃ可愛い。なんか気が引けるんだ。

うーん、こっちは一つアレを使うか、今日は穏やかに行こう。
フフフ、俺もたまには楽しまないとな……今日はあの男の幻影に
俺が入つてやるぞ！

そうすれば、この娘といちいちひらひらし放題だぜ！

シユポ！

俺は女が後ろを振り向いた直後、男の中に勢いよく滑り込む。
大成功！ これでこの幻影体は俺が操り放題よ。

娘の唇が迫つてくる。

チユ〜！

熱いキスを交わす。目を閉じて恍惚とする彼女。

うーん、たまんねえ。

久し振りに味わう五感の感触。柔らかい唇が触れるこの感触は前にも味わった。

他の女の夢の中でだけどな。

まあ、ショッちゅう、こんな事しているわけじゃない。

俺は好みにはつむさいんだ。気に入った女としかこうこう事はやらない。

まあ、夢のシチュエーションにもよるしな。

俺らしくなく、だんだん緊張し始めている。
この女があまりに俺のタイプだからだ。

明かりも眩しいし、女が甘い視線を投げかけてくるから思わず目を閉じてしまった。

瞼が薄つすら電灯に照らされ、白みを帯びている。シユル～っと布が擦れる音が聞こえてくる。

脱衣を始めたな。

俺は閉じた瞼の闇でそれを察すると、更に緊張の度合いが増してきていた。

瞼を閉じる力にも、一層力が入ってしまう。

どうしちまつたんだ、俺、幾らタイプの女だからって緊張しそぎだろ！

俺は今の自分の情けない態が、だんだん嫌になってきていた。

だが、そんな時、突然、足と手が何かのよつて束縛される。

その突然の圧迫感に、俺は即座に目を開けた。

ここは

「オペ開始します……」

とてつもなく、眩しい。

それでも、俺は薄目をなんとか開けて、状況把握に努める。なんだ？ この白一色の身なりをした奴等は。

口にマスク、なんだ？ その手に握っている刃物は？

それでなにをするつもりだー！？

「ちよつと待てよー！ やめろよおつさん！」

俺は皺くぢやの額に汗が滲むオヤジに怒号を飛ばした。

だけど、まるで聞こえていない様子で、刃物を近づけてきやがる。ちょ、ま、待てってば！

おい、じり。

「患者の様子がおかしい。鎮静剤を！」

ええ、何をする氣だ、こら、注射針！？

ああ、分かった、これ手術台か！ ドラマでみたあれだ。
ちょっと待てよ、俺はいたつて健康なんだよ！
ふざけるなーーー！

プス！

「あ、ああ……」

意識が、なんだか遠のき始める。
ね、眠い。

やばい、このままでは俺の体はあの鋭いメスで引き裂かれる。
健康だつちゅーのに……そ、そんなの嫌だあああ。

「ああ、あ、あれーー？」

「…………」

俺は手術台で意識が遠のく中、声にならない声で絶叫していたはずだった。

だが、今、意識がクリアな中、公園の木の枝に座つて幹にもたれていた。

さっきのは……まさか、夢だった……っていうのか。
夢魔の俺が悪夢を？ いや、そんな事はありえない……
もしそんな事ができるとすれば……

「ふふふ、お目覚めかい？」

急に後方から妖しい声が耳に届く。

「だ、誰だ！？」

俺はその声の先に少し怯えた声を投げかける。
すると

「よお、同業者！」

そうでかい声でほくそ笑みながら言ったのが、俺と瓜二つの姿を
した夢魔……？ だつた。

俺は鏡で自分の姿を見た事があるから分かる。
ミツキーマウスを黒く塗りつぶしたような姿……それと酷似した
奴が、宙に浮んで俺の正面で笑い転げている。

「お前、夢魔失格だよ！ 梦魔である同業者の俺に簡単に入られち
まつてやー！」

「ぐ……」

俺は拳を握り締めながら、そいつを睨むが……

「じゃあな～、間抜けな夢魔さん！ ウヒヤヒヤヒヤ……」

そいつは嘲笑の声とともに、ビニカへ跳んで消えていった。

……俺は同業者に夢の中で好き勝手やられた屈辱感に浸つてい
た。

だが、それとは別にまた違った感情が込み上げてくる……
フ、フハ、フハハハ！

「お、俺一人ぼっちじゃなかつたんだ！」

俺は嬉しかつた。世界で夢魔は俺一人で孤独の存在ではないかと半ば疑つていたからだ。

木の葉っぱで何度寂しさに目を拭つた事か……
ああ、なんだか気分さっぱりしてきたぜ～～！
俺はなんだか、清清しい気持ちで立ち上がつた。
そして　また新たなターゲットを探しに、昼寝をしている奴を探しに街へぐりだしたのであつた。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293f/>

夢魔

2010年10月10日02時09分発行